

～物づくり、人づくり、町づくりの  
良い循環を目指して～



新運輸株  
代表取締役社長 中島 徳明さん

「産地大川の生産・物流のトータルパッケージシステム」この新しいビジネスモデルを提唱しているのが、新運輸(株)社長の中島徳明さん。それについて六月二十一日にインタビューを行った。

「産地大川の生産・物流のトータルパッケージシステム」とは一体どういうものでしょうか。

「簡単にいえば、生産から配送まで、産地内の多様な企業がコラボレートし、つまり、一つのパッケージ商品として収益性の高い需要を生み出す考え方です。」

このようなビジネスモデルを提案されているのはなぜでしょうか。

「一つには、時代背景があります。今家具業界は変化のさなかにあります。市場規模の縮小と、海外輸入家具の拡大、量販店の寡占化と競争激化。顧客スタイル変化や嗜好の多様化。販売チャンネルの多様化が進行中です。家具業界、流通業界も手法の手直しが求められていると考えています。」

なるほど、時代の変化の手をこまねいているわけにはいかない、ということですね。他にも理由がありますか。

「はい、私自身産地大川には、素晴らしい潜在的な力がある



と思っています。こんな産地はないと思いますよ。つまりあらゆる家具関連業種が存在し、設計・製造から、運配送まで、すべてが整っています。そしてその特殊性や利点を有機的かつ効率的に活用させてあげれば、他産地との競争にも優位に立てますし、地元そして関連する企業の収益性も増していくと考えています。」

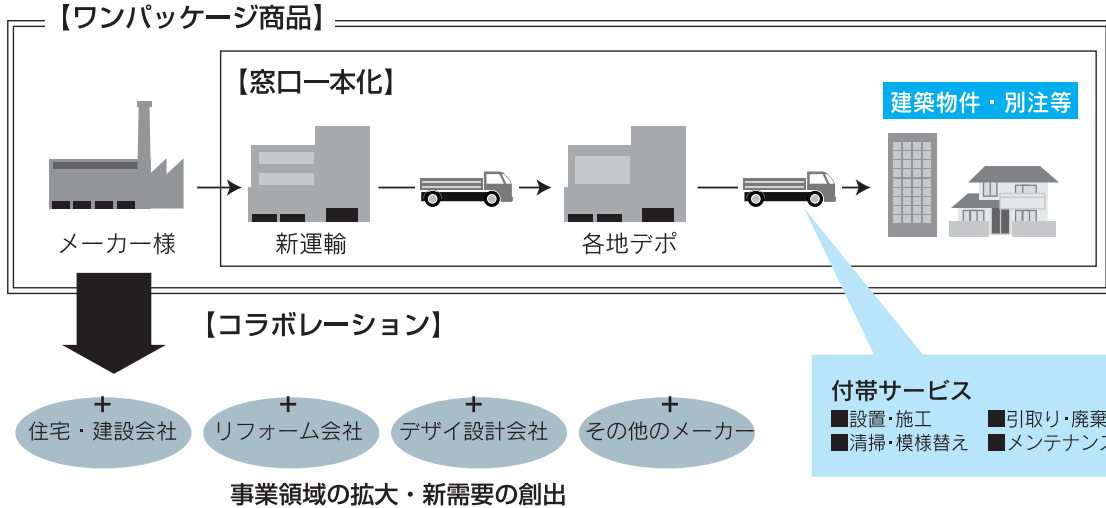
それでは、具体的にお伺いしますが、「産地大川の生産・物流のトータルパッケージシステム」の配送サイドシステムには、新運輸さんが関わっておられる、家具の全国宅配サービスがあると聞きしました。これはどのようなものですか。

「主に全国家具の宅配ネットワークサービス“パネット”を

## トータルパッケージ（新しい需要の創出）

「生産・物流（配送・設置・施工）」までを一つの商品ととらえ、「産地大川の生産・物流のトータルパッケージシステム」という新しいビジネスモデルを構築し、様々な企業とのコラボレーションにより、収益性の高い新しい需要の創出を図ります。

窓口一本化で効率よく仕事をすすめると共に、配送に多様な付帯サービスを加味することで様々なニーズとお客様に対応します。



利用します。これに参画する配送会社は九州から北海道まで約二十社。そして日本全国をほぼカバーする四十七エリアです。例えば、新運輸物流センターに窓口一本で依頼されまると、全国の消費者まで直接お届けできます。幹線共同配送を行い各地デポ（中継基地）まで運びます。その後は提携業者が顧客まで届けます。もちろん窓口である当社がエンドユーザーまでの一貫した責任を負います。このような家具に特化した全国ネットはこれまでにありませんでした。」

**そうですか。では全国宅配家具ネットには、どんな特長があるのでしょうか。**

「まず、小口の荷物でも遠慮無く依頼できることです。各地のデポから共同配送を行うことで小口の荷物にも対応できます。従来は小口であってもチャーター料金といった世界で

利用した。しかし、インターネット販売等も増えつつありますので、対応するため窓口一本で、小物貨物を運べるようにしています。

それに、提携している会社は家具に精通している業者ばかりです。それで、エンドユーザーの玄関先まででなく、室内での設置、施工、組み立てまでできます。そして、付帯サービスとして引き取り、廃棄処分、清掃、模様替え、メンテナンスまで行えます。こういう点では別注家具業者の方々もご利用できるのではないのでしょうか。このシステムをご利用されれば、需要先を遠方まで拡大することも期待できます。」

**このような全国宅配家具ネットが、「トータルパッケージシステム」のいわば土台となっているわけですね。では、地元家具業界とのコラボレーションという点はいかがですか。**

「全国宅配家具ネットは、今年の三月から動き出しています。これまでに十数件依頼を受けています。まだ始まったばかりです。それで、「コラボレーション」についても地元業者の方々に精力的に声を掛けていくところですね。先日六月三日に産業会館で説明会を開いたばかりです。住宅・建設会社、リ

フォーム会社、デザイン設計会社、その他の家具関連メーカーの皆さんと提携して、設計・製造から配送までのワンパッケージ商品を早く確立したいという思いでいっぱいなんです。」

**なるほど。さて、ぶつけますが、将来の夢は何でしょうか。**

「私の場合、事業もさることながら、地元大川に対する愛着は強い方だと思っています。近年の大川の状況を歯がゆい思いで見えてきました。これから大川がインテリアデザインの世界的な集積地に発展していけばいいな、と思います。産地間競争と言うよりも、他産地引いては世界に向けての競争に打ち勝ち、産地として力を蓄えていってほしいですね。こうしてグレードの高い「大川ブランド」を確立できれば、質の高いデザイナーや技術者、若者たちも集まってくる。そしてさらには産地としての力を高めることになると思いますが。物づくり、人づくり、町づくりの良い循環が始まるのではないのでしょうか。」

**本日はありがとうございました。産地大川の生産・物流のトータルパッケージシステムの成功を期待したいと思います。**